

シクラメンを健康診断せよ！

「簡易栄養診断による肥培管理技術の開発」

花屋の店先にシクラメンが並ぶ季節になりました。今回は、シクラメンの花をより美しく咲かせるために生涯を懸けた技術者達の物語です。

■淘汰によるシクラメン生産

昭和五〇年当時、栃木県のシクラメン栽培は、気象条件を活かした大鉢づくりが盛んで、その品質は国内でも最上位であった。しかし、シクラメンの生理生態は解明されておらず、栽培技術は生産者達の「経験と勘」に頼るところが大きかった。当時、シクラメンは生産予定数の倍以上の鉢数を栽培し、淘汰することによって、生産品の品質を確保するのが常識であり、大きな労力と経費を無駄にしていた。

■生理生態を説明せよ！

峯岸長利は、学生の時から、鉢

花が好きで、卒業後、農業高校教師、高等園芸研修所、農業試験場花き部とシクラメン一筋の栽培指導、研究に携わってきた「シクラメンばか」である。

「峯岸は、花き部に移ってから、現状を改善するためには、生理生態の解明と施肥管理技術の開発以外にない」と考えるに至った。本県のシクラメン生産を誰よりも考える峯岸の永年の経験から導き出された結論であった。

そのバイタリティーは驚異的で、膨大な課題数を抱え、朝から夜遅くまで管理と調査に明け暮れる日々を送っていた。

そんなある日、車を運転していた峯岸は、視覚の異常を感じた。長時間、顕微鏡での調査をしたための障害であった。

■シクラメンの健康診断

この様な研究が進む間でも相変

わらず、シクラメン生産の現場では、淘汰によって捨てられた鉢が温室の横に山と積まれていた。「このロスがなくなれば、経営は安定するのに」峯岸はいらだった。施肥管理の改善が重要であることは十分にわかってはいたが、鉢用土が生産者によって異なるなどの理由から、画一的な施肥体系の作成は不可能であると考えられた。

それぞれ栽培条件の異なるものをいかに管理したらよいか峯岸は

思いあぐねていた。そんなある日調査をしていて、ふと思いついた。「人間も自分の健康状態を定期的な健康診断でチェックし、食生活に活かしている。健康診断のシクラメン版を作成してはどうだろうか。そして、その結果に基づいて施肥管理を行うようにしたらよいのではないか。」

しかし、この診断技術を施肥管理に反映させるためには、診断結果が即時に出せることが必要で、実現は非常に困難と思われた。

その悩んでいたときに、兵庫農総試渡辺氏の土壌及び植物体の無機養分濃度を簡易に測定する「迅速養分テスト法」開発の成果が目に入った。峯岸は、「この手法なら生産者でも容易に利用できる」とこの時確信した。

「迅速養分テスト法」をベースに、さらに改良を加え、データの収集を開始した。昭和六〇年度には、シクラメンの研究課題が十四課題にもなった。データの収集は、試験場だけではなく、生産現場においても実施され峯岸は



写真 栄養診断技術生みの親の峯岸（左）

精力的に取り組んだ。

その結果、これらの診断数値とシクラメンの生育状況との関係を精密に解析し、生育ステージ別に適正な診断数値を明らかにすることができた。

■「経験と勘」から「データ解析」へ

芳賀町のシクラメン生産農家、菱沼軍次は、学校卒業後、東京で仕事をしていたが、花栽培への思いが強く、地元に戻り、昭和三七年からシクラメンの栽培を始めた。栽培をするかたわら、最も重要な技術である用土づくりについて、宇都宮市の生産農家、塚崎章三郎のところへ通いながら、研修を受けていた。おりしも、峯岸もシクラメンの栽培を学ぶため、毎日のように塚崎を訪ね、シクラメン栽培について熱い討論を繰り返していた。その話は夕方から深夜にまで及ぶことがあった。その後、菱沼は本格的に、シクラメンの生産を開始し、めきめきと頭角を現すようになり、その名は全国に知れわたるようになった。



写真 比色法による栄養診断

簡易栄養診断技術を確立するためのデータ集積には菱沼も大いに協力した。菱沼のシクラメン栽培技術は篤農的なものであったが、施肥管理は難しく、これまでは出



写真 シクラメンの菱沼が咲きそろったことに
見事

荷まで不安の連続であった。しかし、簡易栄養診断を取り入れることにより、「経験と勘」ではなく、「データ解析」に基づいた施肥管理が可能となった。

菱沼は、昭和六十三年から毎週二回、簡易栄養診断を実施し、現在もデータの集積を続けている。

■受け入れられなかった技術

峯岸は、栃木県鉢物研究会を対象に栄養診断技術の講習会を開催した。この時、品目を問わず鉢物生産者の殆どが診断を経験した。

しかし、診断に労力がかかるため、定着はしなかった。特に、この技術は、単発的な診断では効果が少ないこと、多くのデータ集積を要することが、普及の妨げとなった。

■栄養診断技術の普及

和久井隆は、峯岸の後を継ぎ、平成二年から花き部で鉢物を担当した。

赴任して早々、和久井の作り上げたシクラメンは揃いが良く非常

に高品質なものであり、視察に来た生産者をあつと言わせた。経験がものを言うシクラメンを、栽培初年目からよくもここまで高品質に作りこなしたものだと同感心した。和久井は自信を持ってこう言った「栽培初年目から好成绩を挙げたのは簡易栄養診断技術の成果だ」と。

この頃から、栄養診断を地道に続けている生産者のシクラメンが市場で評価されたことも追い風となり、生産者の簡易栄養診断に対する評価も高まってきた。

その後、簡易栄養診断技術は、県内外からの関心が高まり、講演及び花き部への研修生によって、徐々に普及していった。

近年、診断技術を駆使して生産されたシクラメンが各種展覧会で上位に入選していることが普及をさらに加速させている。

峯岸は、簡易栄養診断技術の開発により、平成七年、全国鉢物園芸全国大会で功労賞、平成一三年、農業技術功労賞を受けた。

(敬称略) 「農業試験場」